

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2_健康・福祉】

施策 2-4_高齢者福祉の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00343_01	要介護者紙おむつ支給事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00345_01	住宅改修支援事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00349_01	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03071_01	緊急通報体制整備事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03228_01	要介護者理美容サービス事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03277_01	見守り推進員設置委託事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00325_01	生活支援体制整備事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00333_01	介護予防ケアマネジメント事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00335_01	介護予防一般高齢者施策事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00336_01	シルバーボランティア事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00337_01	健康長寿地域拠点づくり事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00357_01	地域リハビリテーション活動支援事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00366_01	栄養改善個別指導事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03338_01	生き生きデイサービス委託事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03347_02	低所得者保険料軽減繰出金
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03392_01	高齢者福祉センター整備事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03444_01	指定介護予防支援事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03566_01	保健事業・介護予防一体的実施事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00168_01	包括的継続的ケアマネジメント支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00340_01	高齢者の生きがいと健康づくり事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00342_01	認知症総合支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00342_02	認知症高齢者地域支え合い事業補助金
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00348_01	成年後見制度利用支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00356_01	在宅医療・介護連携推進事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00372_01	認知症高齢者地域支え合い事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03214_01	家族介護者慰労金支給事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03524_01	シニアクラブ活動支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03524_02	老人クラブ運営補助金
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03552_01	ねんりんピック開催事業

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00343_01			
事業名(行目名称)		要介護者紙おむつ支給事業費	細事業名	要介護者紙おむつ支給事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護者3以上の者		数値	2,812人			
	手段(どうやって)	9月・3月に希望する品目(紙おむつや尿とりパッド)を現物で受給者に給付する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に紙おむつなどを支給することにより経済的・精神的負担を軽減する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	委託料 7,128千円		
経費		8,451	9,597	9,597	8,065			
財源	県・国支出金	5,377	5,541	5,541	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	2,209	2,209	0			
	一般財源	3,074	1,847	1,847	8,065			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
対象者数			目標値	380	380	380	380	300
			実績	329	335	271	268	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
今年度から要介護者の所得要件が変更となり、対象者が減少しているが、在宅介護支援サービスとしてのニーズは依然として高い。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
中重度の介護を要する高齢者を介護する者を支援するための重要な事業であるので、今後も継続する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
介護者にとって、紙おむつ支給は非常に有益であり、在宅で介護している家族を支援するための重要な事業であるため、継続して実施する。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	00345_01		
事業名(行目名称)		住宅改修支援事業費		細事業名	住宅改修支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援		担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等			数値	63事業所		
	手段(どうやって)	住宅改修費に添付する理由書を作成した介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等に対し、1件につき2,000円の支援費を支給する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護支援専門員業務に対する支援を行うことにより、住宅改修及び利用者の円滑なサービス需給を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		24	60	60	48	介護サービス支援事業負担金@2,000×30件		
財源	県・国支出金	15	34	34	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	15	15	0			
	一般財源	9	11	11	48			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
支援費額			目標値	40000	60000	60000	60000	50000
			実績	42000	24000	22000	48000	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小					
居宅介護支援等の提供を受けていない要介護等への円滑なサービス提供のため、事業は継続するが、実績に合わせて予算は縮小する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
支援費を支給することにより、住宅改修以外の介護保険サービスの利用がなく居宅介護支援等の提供を受けていない要介護者等に対する住宅改修の円滑なサービス提供を行うことができる。このまま維持することが妥当である。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00349_01			
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費	細事業名	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者		数値	1,857人			
	手段(どうやって)	在宅で、介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の解消を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		45	460	460	0	扶助費 456千円		
財源	県・国支出金	29	265	265	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	107	107	0			
	一般財源	16	88	88	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
支給月数			目標値	100	100	100	100	100
			実績	15	6	0	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
中重度の介護を要する高齢者を在宅で介護している家族を慰労するための重要な事業であるため、今後も継続して実施する。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03071_01		
事業名(行目名称)		緊急通報体制整備費	細事業名	緊急通報体制整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の独居高齢者		数値	4,306人		
	手段(どうやって)	緊急通報装置(シルバーあんしんSシリーズ)を申請者に貸与し、緊急時にはボタン1つで第1通報先(委託契約先)を経由して、第2、第3通報先の協力者(友人、親族等、申請時に登録のあった者)に連絡を行う。第1通報先は、必要があればかかりつけの病院への連絡や、救急車の出動依頼も行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	独居高齢者の事故の防止・緊急時の連絡体系の確保					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,293	1,513	1,513	1,245	装置新設費 @4,000×33件=132千円 通報受信業務委託料 @3,000×365日=1,095千円 保守点検委託料 166千円 装置移設費 9千円 故障修理・データ設定費 @5,500×2件=12千円 装置撤去費 @6,000×15件=99千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,293	1,513	1,513	1,245		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
緊急通報装置設置数		目標値	300	300	200	200	200
		実績	171	146	140	124	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設入所等により設置件数が減少傾向にある。設置件数を増加させていくための方策が必要。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
独居高齢者の不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
独居高齢者の不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も事業を継続する。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03228_01		
事業名(行目名称)		要介護者理美容サービス事業費	細事業名	要介護者理美容サービス事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護3以上の者	数値	2,812人			
	手段(どうやって)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者宅へ散髪の利用券(年3枚)を送付し、理容組合に委託して訪問理美容を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に対する支援を行い、寝たきりの高齢者、介護者の経済的・精神的に安定した生活の継続を支える。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	委託料 4千円×340人×0.9=1,224千円	
経費		1,164	1,247	1,247	1,071		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,164	1,247	1,247	1,071		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
対象者数			目標値	250	250	250	270
			実績	192	210	167	262
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
在宅介護支援サービスとしてニーズが高く、中重度の介護を要する高齢者を介護している者を支援する重要な事業であるので、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
在宅介護者の負担軽減につながっており、要介護者を介護している家族を支援する重要な事業であるので、引き続き事業を継続する。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03277_01			
事業名(行目名称)		見守り推進員活動費	細事業名	見守り推進員設置委託事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	概ね70歳以上の見守りを必要とする独居高齢者		数値	3,002人			
	手段(どうやって)	独居高齢者約10人に1名の見守り推進員を配置し、ふれあい協力員の協力を得て対象者を可能な限り訪問し安否確認を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	安否確認を定期的に行うことにより、独居高齢者の不測の事故、災禍の防止及び孤独感の解消を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		4,769	4,973	4,973	4,595	社協本部委託料 545千円 各支部社協委託料 4,428千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	4,769	4,973	4,973	4,595			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
見守り推進員数			目標値	280	280	280	280	280
			実績	280	281	279	276	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
見守り推進員のなり手不足が課題である。この問題については委託先である社会福祉協議会と今後も協議を続けていく。また、コロナ禍のため、訪問等における接触が難しく、遠くから安否確認を行ってもらうなどの工夫をされている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
見守り推進員が独居高齢者の安否確認を定期的に行うことにより、独居高齢者の事故防止や孤独感の解消を図ることが出来ているため、今後も事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
独居高齢者を地域で見守り、対象者が住み慣れた地域で安心して暮らすための取り組みとして必要であるため、今後も事業を継続する。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00325_01		
事業名(行目名称)		生活支援体制整備事業費	細事業名	生活支援体制整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	37924		
	手段(どうやって)	第1層(市)に1人、第2層(生活圏域)に各1人ずつコーディネーターを配置し、地域の実情把握や資源開発等に携わる。コーディネーターの協議の場として、協議体もそれぞれ設置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護予防や生活支援のための様々な資源を調整して、在宅生活を支える地域づくりを推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		13,220	17,487	17,487	16,668	健康長寿コーディネーター(会計年度任用職員)人件費 報酬(非常勤・3人分) 5,179千円	
財源	県・国支出金	8,412	10,098	10,098	0	給料(常勤・2人分) 6,356千円	
	地方債		0	0		職員手当等(含通勤手当) 2,175千円	
	その他	0	4,023	4,023	0	共済費 2,727千円	
	一般財源	4,808	3,366	3,366	16,668	活動諸経費 市内旅費等 研修旅費 300千円	
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	
協議体設置数			目標値	5	10	6	7
			実績	6	5	5	6
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い	
<p>昨年度、これまで各校区で開催していた地域ケアネットワーク推進協議会を、地域課題の特定と地域ならではの解決策を住民自ら協議できるような場に改善するために、コアメンバーと協議し、住民自身で「それぞれの地域に合った協議の場」を決めてもらった。今年度は、新たなスタートラインに立った「それぞれの地域に合った協議の場」を住民と一緒に育てているところである。住民が主体的に取り組めるよう、協議の進行をサポートしたり進捗を確認したりしている。今後は、地域の声に福祉の視点を掛け合わせることで、地域の繋がりを育んだり新たな社会</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
<p>第1層(市全体を担当)を令和4年度から1人体制とする。第2層(日常生活圏域担当)は4人体制とし、1圏域は第1層コーディネーターが兼務する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		B:事業の進め方の改善検討				
<p>地域ケアネットワーク解散後に新たなスタートラインに立って「それぞれの地域に合った協議の場」を住民と一緒に育てている。住民が主体的に取り組めるよう、協議の進行をサポートしたり進捗を確認したり、地域の声に福祉の視点を掛け合わせたことで、今年度は、新たに1つ協議体が立ち上がっている。次年度は、地域コミュニティー課で実施している「まちづくり協議会」との交流を深め、新たな協議体の立ち上げの糸口を探る。</p>							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00333_01			
事業名(行目名称)		介護予防ケアマネジメント費	細事業名	介護予防ケアマネジメント事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要支援1・2、事業対象者		数値	2377			
	手段(どうやって)	地域包括支援センター職員または、居宅介護支援事業所に委託して、介護予防ケアマネジメントとして、サービス事業対象者の利用計画や継続支援、評価等を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	適切なケアマネジメントにより、生活機能の低下を防ぎ、自立した生活が続けられるよう支援する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		42,079	34,334	34,334	30,331	報酬(会計年度任用職員3人、事務職員) 9,024 職員手当等 1,504 共済費 1,814 旅費(会計年度職員市内旅費・通勤手当) 562 委託料(介護予防ケアマネジメント委託料) 20,926 使用料及び賃借料(基幹システム4台使用料) 400 負担金補助及び交付金(住所地特例負担金) 104		
財源	県・国支出金	17,603	13,526	13,526	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	16,517	16,517	0			
	一般財源	24,476	4,291	4,291	30,331			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合 (目標値は介護保険計画予想数値より算出) (高齢者人口÷要介護認定者数)÷高齢者人口			目標値	84.04	83.72	83.72	84.54	84
			実績	84.8	84.67	84.67	83.65	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
介護保険法に定められた必須事業。介護予防支援事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を諮る。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小					
事業内容は現状のまま継続するが、地域包括支援センター管理事業費との人件費の配分を見直すことで、事業費を縮小させる。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合は、一進一退ではあるが、一定の効果があるものと思われる。また、本事業は必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き介護予防ケアマネジメントを推進する。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	00335_01		
事業名(行目名称)		介護予防一般高齢者施策事業費		細事業名	介護予防一般高齢者施策事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民			数値	38089		
	手段(どうやって)	介護予防の意識啓発のため、広報誌等による周知啓発や介護予防教室等を実施。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域において、自主的な介護予防活動が実施され、高齢者が積極的にこれらの活動に参加し、また、元気な高齢者自身が支えてとなつて、みんなで支えあい、介護予防に向けた取り組みを実施する地域社会を構築する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		16,975	17,283	17,283	14,562	報酬(会計年度任用職員)1,736 給料(作業療法士)2,686 職員手当等788 共済費 1,063 旅費(事務職・作業療法士市内旅費・先進地視察) 357 需用費 ・用紙類 191 ・ガソリン代 82 ・軽自動車修理代 26 役務費(軽自動車保険料等) 54 委託料(介護予防教室委託料等)10,000 使用料及び賃借料(電算機器使用料) 300		
財源	県・国支出金	7,101	6,809	6,809	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	8,314	8,314	0			
	一般財源	9,874	2,160	2,160	14,562			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
介護予防教室延べ参加者数			目標値	1000	1000	1000	1000	1000
			実績	1082	777	242	952	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや低い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>介護予防教室には、幅広い心身機能の高齢者が混在している。集団を対象とした教室の中で、参加者1人1人の心身の状態に合わせて個別的な指導をすることには限界があることから、心身機能が低下している参加者に対しては、教室開催の前後に訪問評価や評価会議を実施し、個別的なアセスメントや指導を行うことで介護予防の効果を高められるようにしている。一方で、大人数には対応できないことや、感染症防止の観点から、密集・密接を回避するためにも1教室あたりの受け入れ可能人数は25名が限度であると考ええる。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>効率性はやや低いものの、教室参加者のうち要介護のハイリスク者を抽出し、短期集中的に状態改善を図るよう支援することで介護予防の妥当性、有効性は高い。教室開催の前後に訪問評価や評価会議を実施することで、在宅生活継続に向けた課題を抽出し、教室での学びがより効果的になるような指導が行える。訪問指導と教室による集団指導を組み合わせ、連携して介護予防効果を向上できる仕組みが定着するためにも引き続き実施することとする。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、参加者人数84人と定員に達しなかったが、リタイア率は平成30年度の14.3%と比較して、4.8%と少ない。令和元年度より利用者の定員を縮小したことや、心身機能の低下が疑われる利用者について事前評価会議で心身機能の課題などの情報を共有したことで、きめ細やかな対応ができたことが利用者の参加意欲の持続に繋がったと考えられる。また、転倒リスク評価では、18%が改善・80%が維持しており、事業効果が確認できたことから、教室のプログラムは介護予防効果のある妥当なものであったと考える。</p>								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00336_01		
事業名(行目名称)		シルバーボランティア事業費	細事業名	シルバーボランティア事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の要介護・要支援認定者を除く市民		数値	29987		
	手段(どうやって)	高齢者のボランティア活動を評価したうえでポイントを付与し、当該高齢者の申し出により、ポイントを交付金等と交換する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献をするとともに、健康増進を図り介護予防につなげる。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	報償費(シルバーボランティアポイント換金)282千円 負担金補助及び交付金(ボランティア事業負担金)168千円	
経費		400	450	450	112		
財源	県・国支出金	167	177	177	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	217	217	0		
一般財源		233	56	56	112		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
ポイント交換者数		目標値	—	0	50	100	100
		実績	—	0	25	40	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
R3年度からボランティア活動推進事業に事業が統合され、R3・4年度中は前々年度活動した申請分のポイントを付与する事務を実施。あかがねポイントへスムーズに移行できるよう登録者へ申請時に説明を行っている。また、事業統合に伴い、成果指標としてボランティア活動者(65歳以上)の把握を地域コミュニティ課が管理している「ポイント交換者数」に変更する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
R4年度までは、シルバーボランティアとして取り組んだ活動に対してポイント付与とポイント交換事務、ボランティア活動推進事業による活動者への換金を実施。R4年度以降はポイント付与と換金のみを実施予定。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)		B:事業の進め方の改善検討			
現行のシルバーボランティア事業に関しては、翌々年度までのポイント交換が可能のため、今年度24名の交付となっている。ボランティア活動推進事業への移行に伴って、地域コミュニティ課が管理している65歳以上のポイント交換者数の評価となるが、コロナ禍でもあるため、活動実数は予定数より減少していると考えられる。ボランティア活動推進事業の体制整備が整い次第、活動の周知を協働して行う必要がある。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00337_01	
事業名(行目名称)		健康長寿地域拠点づくり事業費	細事業名	健康長寿地域拠点づくり事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	38030	
	手段(どうやって)	自治会館等を活用して、高齢者が主体的に通いの場を運営できるように支援する。地理的条件の悪い大島地区においては、介護予防を希望する高齢者が食事やコミュニケーション、軽い体操などの介護予防プログラムに取り組めるよう、介護予防事業所に委託して支援を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	一般高齢者の介護予防と高齢者の居場所づくり、仲間づくり、役割づくり				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		6,470	17,036	17,036	6,092	報償費 98千円 旅費 55千円 需用費 3,300千円 (消耗品費 2732千円 印刷製本費 568千円) 役務費 147千円 (通信運搬費 129千円 傷害保険料 18千円) 委託料 11,436千円 負担金補助及び交付金 2,000千円
財源	県・国支出金	2,707	6,711	6,711	0	
	地方債		0	0		
	その他	0	8,196	8,196	0	
	一般財源	3,763	2,129	2,129	6,092	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
拠点立ち上げ数(累計)		目標値	105	130	110	125
		実績	94	98	99	99
						令和4年度
						120
						—
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動休止が頻回で長期間に渡ったこと、また拠点参加者の高齢化していること、この2点が要因となり拠点参加人数が減少傾向にある拠点が增多している。感染対策を実施しながら安心・安全に介護予防を継続していくため、県や市内の感染状況に応じて拠点運営段階を決め、感染対策を参加者に周知し遵守してもらいながら活動をおこなってきた。拠点参加人数の増加を目指し広報等で参加者を募ると市民の方から多くの問い合わせをいただき、周知が効果的であることが分かった。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>引き続き参加者へ感染対策の呼びかけを行うとともに、参加者増加に向けて市民の拠点参加を募る働きかけを行う。拠点に参加することで介護予防のみならず地域での繋がりが増え、参加者同士がお互いに助け合える地域を目指して今後も継続していく。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により拠点活動が休止・再開を繰り返したり、PPK体操の体験会ができず新規拠点開設や新規参加者が思うように増えなかった。しかし、市政だよりでPPK体操の記事を見た市民から問い合わせの電話が増え、拠点活動に興味を持ってくれる市民がいることは分かった。拠点参加者にとっても人が集まる環境に友人や知り合いの誘いやすさはあるようだが、感染状況を見ながら周知・啓発を続け、感染予防対策の徹底を呼び掛けながら拠点事業を今後も斡旋していく。</p>						

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00357_01		
事業名(行目名称)		地域リハビリテーション活動支援事業費	細事業名	地域リハビリテーション活動支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者		数値	37924		
	手段(どうやって)	リハビリテーション等専門職を活用して各介護予防事業等への助言指導、訪問指導等と事業改善を行う。助言指導等は介護予防教室、健康長寿地域拠点、地域ケア会議等の利用者、関係事業者等に行い、専門職は報償費で対応。事業改善は平成30年度に評価基準の作成、令和元年度・3年度に市民体操指導士の養成、令和2年度にPPK体操のバージョンアップを、専門職団体への委託により行う。令和4年度以降は、介護予防事業等へのアセスメントと評価に関するガイドラインの作成と市民体操指導士の養成を引き続き行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	専門職の関与によりPDCAサイクルを回して、高齢者に将来に渡って(人生の最期を迎える日まで)自立支援につながる介護予防事業を提供、もって健康寿命の延伸を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,045	1,135	1,135	363	リハビリテーション専門職助言指導 報償費 PPK伝達研修会指導 400千円 市民体操指導士養成講座等 680千円 事務経費 消耗品費(事務用品等) 55千円	
財源	県・国支出金	438	446	446	0		
	地方債		0	0			
	その他	478	548	548	0		
	一般財源	129	141	141	363		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
市民体操指導士養成人数(累計)		目標値	20	20	40	40	43
		実績	21	21	21	21	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
各種介護予防事業の実施に対し、リハビリテーション専門職等の関与を得ることで専門性の高い効果的な事業展開が期待できる事業である。各年度で重点的に取り組む介護予防事業は異なるが、継続的に専門職を起用して成果向上を目指す。 11月、12月に市民体操指導士を養成する講座を実施するため、リハビリテーション専門職協会と打ち合わせをしているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては講座を開講できない可能性がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和4年度は、介護予防アセスメントと評価に関するガイドラインを作成する予定である。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
今年度市民体操指導士2期生の養成を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により開講できず。そのため、次年度検討予定だった、介護予防アセスメントと評価に関するガイドラインを、リハビリテーション専門職協会と協議を重ね、作成。今後も、委託事業者や市民体操指導士への効果的な運動の指導や、介護予防事業等への助言指導を継続することで、専門性の高い効果的な事業展開を進めていくことができる。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	00366_01	
事業名(行目名称)		栄養改善個別指導事業費		細事業名	栄養改善個別指導事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者のうち要支援認定者及び事業対象者			数値	2384	
	手段(どうやって)	栄養改善等、生活機能の向上が必要な高齢者に対し、管理栄養士等専門職が短期集中的に個別訪問指導を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生活機能の向上が必要な高齢者が、自身の生活を見直し、改善及び自立を図り要介護状態になることを予防する。また、心身機能やセルフケア能力の向上、社会参加を促進し、自己決定に基づいた自分らしい生き生きとした生活を少しでも長くつづけられるようにする。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,456	2,904	2,904	2,571	報償費(会計年度任用職員・管理栄養士雇用): 2,109千円	
財源	県・国支出金	1,027	1,144	1,144	0	共済費(各保険料): 365千円	
	地方債		0	0		旅費: 171千円	
	その他	0	1,397	1,397	0	消耗品費: 50千円	
	一般財源	1,429	363	363	2,571	役務費: 9千円 使用料及び賃借料: 200千円	
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	
利用者数			目標値	6	12	8	16
			実績	11	16	11	18
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>訪問指導実施中が9名、実施予定者が2名。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため訪問が延期となり当初の訪問予定から遅れが生じているが、脱落者はいない。訪問間隔が空いてしまうことで、指導内容が生活改善に結びつきにくく感じる場面もあるため、対策が必要と感じる。家族の同席なども可能な利用者もおり、一部家族支援や個別指導につながっている。今後も、他事業からの対象者抽出の可能性を広げ、支援者への周知啓発に努めていく。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>外出機会の減少による、他者との交流や筋力・認知機能の低下などのリスクが高まるため、事業の周知と利用者へ効果的な指導になるよう手技・手法を改善し実施する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		B: 事業の進め方の改善検討				
<p>コロナ禍により訪問間隔が空いてしまうなどの問題があったが、利用者数も目標を達成し「意欲的になった」「PPKにつながった」等フレイル予防に効果をあげた。今後も、地域ケア会議などで外部組織ケアマネへの周知啓発に努めたり、介護予防事業(介護予防訪問相談・健康長寿地域拠点づくり事業・一般高齢者介護予防教室)等からの対象者抽出の可能性を広げる。</p>							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03338_01			
事業名(行目名称)		生き生きデイサービス事業費	細事業名	生き生きデイサービス委託事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区に在住の在宅の高齢者等		数値	80人			
	手段(どうやって)	新居浜市総合福祉センター別子山分館へ通所し、食事・入浴・健康指導・趣味活動を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区に在住の在宅の高齢者等が、新居浜市総合福祉センター別子山分館への通所により、日常動作訓練・趣味活動・健康指導を通して社会的孤立感の解消・自立生活の助長・要介護状態になることの防止を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	委託料 4,074円×240回=978千円		
経費		490	979	979	518			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	490	979	979	518			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
延べ利用者数			目標値	190	190	190	190	190
			実績	208	120	61	127	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
新型コロナウイルス感染症対策のため、例年の半分しか実施できていない。別子山地区の社交の場となっており孤独感の解消や生活の質向上に役立っているため、感染症対策を行いながら事業を継続していくことが課題。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
別子山地区高齢者の交流の場となっている。介護予防及び自立生活助長のため、今後も継続して事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
別子山地区に在住の高齢者が、新居浜市総合福祉センター別子山分館への通所により、日常動作訓練・趣味活動・健康指導を通して、自立生活を助長し、要介護状態になることの防止及び高齢者の孤立感解消を図ることができるため、事業の継続が望ましい。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03347_02			
事業名(行目名称)		(施)介護保険事業特別会計繰出金	細事業名	低所得者保険料軽減繰出金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	保険料段階が第1段階～第3段階の第1号被保険者		数値	15,469人			
	手段(どうやって)	公費を投入して、第1段階から第3段階までの保険料を軽減する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護保険料を払うのが困難な低所得者の負担を軽減する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		210,282	211,195	211,195	211,195	所得段階第1段階～第3段階の保険料軽減額 211,195千円		
財源	県・国支出金	159,591	158,395	158,395	159,513			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	50,691	52,800	52,800	51,682			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
保険料軽減者数			目標値	8410	15469	15469	15412	15489
			実績	8317	15586	15586	15609	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
介護保険の1号(65歳以上)保険料について低所得(市町村民税非課税世帯全体)の保険料の軽減を強化する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
公費負担により低所得者(市町村民税非課税世帯全体)に対して保険料の軽減が行われ、生活支援に寄与できた。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03392_01			
事業名(行目名称)		高齢者福祉センター整備事業	細事業名	高齢者福祉センター整備事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内高齢者福祉センター(上部・川西・川東・大島分館)		数値	4箇所			
	手段(どうやって)	各高齢者福祉センターの経年劣化箇所等の修繕及び設備、備品の更新						
	目的(どんな状態にしたいのか)	利用施設および設備の充実。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		13,282	858	858	811	川東 東側駐車場修繕工事 759千円 上部・川東・川西 自動血圧計 99千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	11,100	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	2,182	858	858	811			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
延べ利用者数(4館合計)単位:人			目標値	100000	100000	100000	100000	100000
			実績	80282	50211	20000	34622	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
4施設とも建築されてから35年以上が経過しており、高圧受電設備、受水槽、ボイラー等の経年劣化が著しい状況で、いずれも改修工事を要する。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
高齢者福祉センターは大島分館を含めた4館とも建築されて35年以上が経過しており、今後も施設本体、設備及び設置器具についても経年劣化が進み、継続的に修繕工事や設備更新が必要になる。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
高齢者福祉センターにおいて令和3年度も修繕工事、設備更新を実施しているが、市内4か所の高齢者福祉センターは設置後35年以上が経過しており、今後も経年劣化等による施設修繕及び設備更新が随時必要であり、この傾向は縮小することはないため、今後も計画に沿って事業を進めていく。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03444_01			
事業名(行目名称)		指定介護予防支援事業費	細事業名	指定介護予防支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要支援1・2		数値	2014			
	手段(どうやって)	軽度者が適切な介護予防サービスを受けられるように、事前アセスメント、介護予防ケアプラン作成、事後アセスメントなどの介護予防ケアマネジメントを行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	軽度者(要支援1・2)に自立支援に向けた適切な介護予防サービスを提供することで、心身の状態の維持・改善を図り、住み慣れた地域・家庭で自立した日常生活を継続できるようになり、生きがいや自己実現欲求の創出など、高齢者の生活の質の向上が図られる。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	報酬(会計年度任用職員 6人) 14,819 職員手当等 2,470 共済費 2,973 旅費(会計年度職員市内旅費・通勤手当) 1,219 需用費(消耗品) 510 役務費(通信運搬費) 120 委託料(介護予防支援業務委託料) 45,820 使用料及び賃借料(基幹システム6台使用料) 642 負担金補助及び交付金(主任研修受講料) 190		
経費		66,108	68,763	68,763	67,273			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	64,502	66,862	66,862	66,722			
一般財源		1,606	1,901	1,901	551			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合 (目標値は介護保険計画予想数値より算出) (高齢者人口÷要介護認定者数)÷高齢者人口			目標値	84.04	83.72	83.72	84.54	84
			実績	84.8	84.67	84.67	83.65	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>介護保険法に定められた必須事業。介護予防ケアマネジメント事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を諮る。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>高齢者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を継続するというを実現するために、要支援1又は要支援2の認定者に対し要介護状態へ移行することを予防する観点から包括支援センターが行わなければならない事業であるため継続して実施する。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
<p>高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合は、一進一退ではあるが、一定の効果があるものと思われる。また、本事業は介護予防ケアマネジメントと併せて、要支援認定者のケアマネジメントを行うもので、必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き事業を継続する。</p>								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03566_01	
事業名(行目名称)		保健事業・介護予防一体的実施事業費	細事業名	保健事業・介護予防一体的実施事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	75歳以上の市民		数値	19840	
	手段(どうやって)	高齢者の保健事業の実施主体である後期高齢者広域連合から業務委託を受けて、市が高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施する。KDBシステムを活用した健康データの分析、事業の企画調整と、それに基づく個別の保健指導及び通いの場等での健康相談、健康講座等を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者の疾病予防と心身機能の向上を一体的に実施することで介護予防の推進を強化し、健康寿命を延伸する。				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		0	3,325	3,325	1,152	報酬(医療専門職) 1,756千円 職員手当(含通勤手当) 242千円 共済費 338千円 市内旅費等 151千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	事務諸経費 需用費(教材・パンフレット等) 280千円 役務費(通信運搬費・事務連絡等) 17千円 庁内LAN使用料100千円
	地方債	0	0	0		KDBシステム設置費
	その他	0	2,784	2,784	568	KDBシステム専用配線費用100千円
	一般財源	0	541	541	584	KDBシステム使用料・利用負担金341千円
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
健康長寿地域拠点訪問箇所数		目標値	0	0	12	24
		実績	0	0	0	24
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
<p>事業に従事する専門職の確保ができず、地域包括支援センターで介護予防業務に従事している会計年度任用職員の管理栄養士を、7月より週4日勤務から週5日勤務に変更し、増やした週1日分を本事業に充てることで対応している。高齢者の通いの場である健康長寿地域拠点で健康相談、健康講座等を行うことになっているが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、4月、5月、8月、9月、10月と拠点を休止したため予定したように事業が進められていない。今後も、事業の進捗は新型コロナウイルス感染症の拡大状況に影響を受けるとされる。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
事業に専従する専門職の確保を目指す。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和3年度)		B:事業の進め方の改善検討			
<p>「高齢者の保健事業と介護予防との一体的実施事業」に従事する専門職の確保ができなかったため、「個別的支援(ポピュレーションアプローチ)は国保課」で「拠点等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)は地域包括支援センター」で既存のマンパワーを工夫して実施した。コロナ禍によりやむなく拠点活動が休止となった時期があったが、実施できる時は予定どおりに行った。来年度は、医療保険(国保・後期)と介護保険の保健事業がそれぞれ接続できるよう体制整備を図る。</p>						

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00168_01		
事業名(行目名称)		包括的継続的ケアマネジメント支援事業費	細事業名	包括的継続的ケアマネジメント支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の介護支援専門員		数値	300		
	手段(どうやって)	介護支援専門員の資質向上のための各種研修会の開催、ケアプラン作成に係る技術的指導及び助言。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	居宅介護支援事業者や介護サービス事業者、介護支援専門員などとの多職種協働や、その他地域の関係機関との連携を通じて、ケアマネジメント支援を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		299	648	648	372	報償費(謝金) 496千円 旅費(介護支援専門員旅費) 69千円 需用費(消耗品費) 59千円 負担金補助及び交付金(主任研修参加費) 24千円	
財源	県・国支出金	190	373	373	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	151	151	0		
	一般財源	109	124	124	372		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
地域ケア会議検討事例数		目標値	36	36	36	0	36
		実績	39	29	29	36	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
幅広く地域課題を抽出するための地域ケア会議の検討事例数の提供が伸び悩んでいたため今年度から包括支援センターから1事例を追加し毎月3事例検討することとなった。また、介護支援専門員連絡協議会で施設部会等いくつかの部会において研修を行い職員の資質向上を図っていたが、役員不足などから負担増となっていたため圏域別に集約し新たな形での運営方法に改善した。運営がスムーズに行えるよう検証していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
介護支援専門員の資質向上と共に地域課題を抽出できるなど、介護予防・自立支援を実現するためには必要な事業であり、継続していく必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
新型コロナウイルス感染症拡大により会議の開催が心配されたが、書面開催を実施することで、計画通り行うことができた。また、地域ケア会議を実施することで介護支援専門員の資質向上と共に地域課題を抽出できるほか、多職種で協議することでネットワークが強化され、日々のケアマネジメントにおいて相談し合える関係ができてきた。介護予防・自立支援を実現するための介護予防ケアマネジメントとなるよう、本事業を継続していく必要がある。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00340_01		
事業名(行目名称)		高齢者の生きがいと健康づくり事業費	細事業名	高齢者の生きがいと健康づくり事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	活動的な状態にある高齢者を含む全ての高齢者		数値	38,089人		
	手段(どうやって)	高齢者を代表する組織である老人クラブに生きがいと健康づくり事業を委託する。 主な事業内容としては、(1)健康文化活動 (2)軽スポーツ活動 (3)公共施設の美化活動 (4)交通安全活動 (5)支え合いサロン活動 (6)栄養改善活動 など					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者が地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技能等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者全般の介護予防に寄与し、ひいては本市の課題でもある健康長寿を延伸させることを目的とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	高齢者の生きがいと健康づくり事業委託料 3,700千円	
経費		3,700	3,700	3,700	3,700		
財源	県・国支出金	1,548	1,457	1,457	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	1,781	1,781	0		
	一般財源	2,152	462	462	3,700		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
事業参加者数 (年間延人数合計 単位:人)		目標値	50000	50000	50000	50000	50000
		実績	76171	59881	30000	48343	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>高齢者の生きがいと健康づくりや社会参加を促進し、高齢者の介護予防に資することを目的としており、老人クラブ会員自らが主体的に周囲の高齢者に対しても働きかけながら、様々な活動を推進していく必要があるが、どうしても多くの高齢者が参加しやすい健康文化活動、軽スポーツ活動、公共施設の美化活動の比率が高くなっており、介護予防等の観点から進めていく必要がある支え合いサロン活動等の活動が少なくなっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>老人クラブ会員が老人クラブの活動を基盤としながら、地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技術等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者の健康寿命の延伸につながっている。次年度も健康長寿社会の実現に向けて、高齢者の生きがいと健康づくりを積極的に推進するため、事業を継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>本事業が展開されたことで、高齢者の健康寿命の延伸に寄与することができている。今後も市の推進課題でもある健康長寿社会の実現に向けて、介護予防活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを行政が積極的に促進していく必要がある。</p>							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00342_01		
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症総合支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数		数値	37,924人		
	手段(どうやって)	認知症に関する相談、支援 認知症に関する正しい知識の啓発(認知症サポーター養成講座他) 認知症見守りネットワークの構築及び地域での認知症見守りネットワーク活動支援 認知症初期集中支援チームの設置 認知症地域支援推進員の配置					
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,738	2,158	2,158	860	認知症初期集中支援推進事業 614千円 認知症地域支援・ケア向上事業(SOS・講演会他) 1544千円	
財源	県・国支出金	1,107	1,245	1,245	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	498	498	0		
一般財源		631	415	415	860		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
SOS協力機関数+地域SOS登録者数(各数値)			目標値	-	-	1340	1440
			実績	1225	1292	1307	1346
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら穏やかに生活ができるよう、認知症への正しい理解のための普及啓発、認知症高齢者の見守り・捜索・保護などのネットワークづくり、認知症について相談があった早期に専門職が支援できる体制づくりを実施している。 令和2年度までの認知症高齢者地域支え合い事業が令和3年度より本事業と認知症高齢者地域支え合い事業の2事業に細分化されたため、成果指標を変更。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今後も引き続き、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指し、認知症への正しい理解のための普及啓発に努めていく。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>認知症講演会を開催することで、市民が認知症について考える機会を持つことができた。今後も認知症にやさしいまちづくりを目指し、より多くの市民が認知症への理解を深め、考えることができる機会をを確保していく。</p>							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00342_02			
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	角野、泉川校区高齢者数		数値	7,774人			
	手段(どうやって)	認知症についての正しい知識を普及啓発し、市民が認知症になっても見守ることができる地域になる。認知症による行方不明発生時の早期発見につながる支援活動や認知症のかぞくの介護負担を軽減する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら、生活を継続することができる。また地域の見守り、支援活動による地域づくりにつながる。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		486	471	471	471	すみのSOS見守りネットワーク協議会補助金 240千円 泉川SOS見守りネットワーク協議会補助金 231千円 使用用途:住民へ配布するパンフレット等の印刷費、活動に必要な消耗品・備品購入費等		
財源	県・国支出金	309	271	271	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	110	110	0			
	一般財源	177	90	90	471			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
いサポーター(角野)、あいサポーター(泉川)登			目標値	750	1070	1145	1170	1270
			実績	1056	1119	1134	1172	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>サポーター数は、一定の数値に達したため登録者数の増加は微増となっているが、より広く地域住民に認知症に関する理解と協議会活動の有意義性を理解してもらい、協力者を増やすことが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、認知症に関する学習会等の活動が中止や延期となり思うような活動ができていない。今後も感染拡大状況に影響を受けると思われるが、感染対策をしながら地域の見守り体制の構築、住民への普及啓発のために継続的な活動が必要である。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>認知症への理解を深め、正しい知識を持ち適切な対応ができる住民が増え、住民主体での見守り体制が構築できるよう活動支援を行っていく。</p> <p>市全体のSOSネットワークと連携しながら、認知症による行方不明者の早期発見、安全保護に努める。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>住民が主体となり認知症に関する知識の普及、徘徊による行方不明発生時に早期に発見できるネットワークの構築、家族の介護負担の軽減のための支援活動を実施。角野校区では、今年度は認知症の勉強会、認知症高齢者の家族の集いの場であるふれあいサロン、認知症劇で認知症の人への関わり方を伝えるふれあい劇団のシニア交流センターでの公演など充実した取り組みを実施している。泉川校区では認知症の勉強会、認知症を楽しく正しく理解してもらうための「あいサボかるた」の作成を進めている。</p>								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00348_01		
事業名(行目名称)		成年後見制度利用支援事業費	細事業名	成年後見制度利用支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	成年後見開始の審判申立を行うべき者がいない認知症高齢者等		数値	10人		
	手段(どうやって)	認知症等により判断能力が十分でない高齢者が成年後見制度を利用するにあたり、申立を行うべき配偶者等の4親等以内の親族がない場合、市長が成年後見開始の審判申立を行うとともに、費用について助成を受けなければ成年後見制度の利用が困難と認められる者について助成を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	成年後見制度の利用を支援することにより認知症高齢者等の権利を擁護する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		956	1,661	1,661	1,030	後見人報酬 648千円 成年後見申立費用 301千円 後見啓発事業委託料 712千円	
財源	県・国支出金	609	958	958	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	170	384	384	0		
一般財源		177	319	319	1,030		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
市長申立てによる成年後見制度利用者数(人)			目標値	4	4	4	10
			実績	11	10	13	14
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>認知症高齢者の増加により、成年後見制度利用促進についての市町の主体的関与が必要となっている。関係機関等からの成年後見人の選任についての相談が増えており、成年後見等の申立件数も増えている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律が制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>超高齢社会が進行している状況下において、今後も判断能力が全くない若しくは十分でない認知症高齢者の増加は避けられない。令和3年度も市長申立ての必要があった案件14件について、家庭裁判所の審判を得ることができた。平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律も制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は相談案件も含めて増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00356_01			
事業名(行目名称)		在宅医療・介護連携推進事業費	細事業名	在宅医療・介護連携推進事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数	数値	37,924人				
	手段(どうやって)	地域の医療・介護サービス資源の把握 切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進 在宅医療・介護連携に関する相談支援 地域住民への普及啓発						
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅医療・介護連携の課題抽出と対応協議 医療・介護関係者の情報共有の支援 医療・介護関係者の研修 二次医療圏内の市町連携						
目的		医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく最期まで続けることができるよう、在宅医療関係者と介護関係者の連携推進を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		2,275	3,156	3,156	2,504	報償費(講師謝礼) 100千円 旅費(講師旅費) 55千円 消耗品費(文具) 61千円 印刷製本費 375千円 器具修繕費(タブレット修繕) 40千円 通信運搬費(タブレット使用料他) 493千円委 託料(医療・介護連携協力機関業務委託料、 ケアポータルサイト運用保守委託料) 2,032千円		
財源	県・国支出金	1,446	1,822	1,822	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	727	727	0			
	一般財源	829	607	607	2,504			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
、部会、多職種連携で行う研修会および市民向			目標値	14	14	2	4	5
			実績	9	3	2	3	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
昨年度末時点で事業を開始した平成30年度に計画していた取組がおおむね終了したため、協議会委員のうちの専門職者で構成されるコアメンバーで今後取り組むべき課題について検討を行い、在宅医療・介護に関わる多職種が相互理解し、スムーズな連携ができるよう、関係職種・機関の役割と必要な情報を整理・開示・共有することが必要であることが明らかになった。今後は協議会にてさらに検討を重ね、課題への取り組みを進める。 新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢者に関わる関係者が多く、研修会の開催や市民向けのイベントでの広報が積極的に行えていない。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
今後も課題解決のために、部会にて多職種の連携体制構築のための検討、医師会との連携、研修会の開催、市民向けイベントでの広報などを積極的に行う必要がある。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
協議会を2回、今後取り組むべき課題を検討するコア会を1回実施した。今年度は令和2年度に整理した課題の中から優先して取り組むべき課題の検討を行い、関係職種・機関の役割と必要な情報を整理、開示、共有する必要が明らかになった。協議会にて検討した結果、次年度以降は、スムーズな多職種間連携を目指し、多職種の業務内容や、多職種連携していく上で多職種に知っておいてほしい情報をまとめた冊子の作成を進めていくこととなる。 住友別子病院と共催の市民向けイベントは新型コロナウイルスの影響で中止となった。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	00372_01		
事業名(行目名称)		認知症高齢者地域支え合い事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数	数値	37,924円			
	手段(どうやって)	認知症サポーター養成講座による認知症に関する正しい知識の普及 認知症の人やその家族が集い、地域社会からの孤立を防ぎ、地域の人や専門家と相互に情報共有できる場であるオレンジカフェの周知、カフェ同士の交流会の実施等の後方支援を実施					
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	1,210	1,210	938	認知症サポーター養成講座 828千円 家族介護支援事業(オレンジカフェ) 382千円	
財源	県・国支出金	0	697	697	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	281	281	0		
	一般財源	0	232	232	938		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
認知症サポーター数(累計)		目標値	-	-	18315	19100	20900
		実績	15774	17530	18375	19354	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
認知症サポーター養成講座は感染対策をしながら教育機関、企業等を対象に実施を継続し認知症に関する正しい知識の普及に努めている。教育機関への周知を強化することで、昨年度と比較し講座申込校が増加している。 オレンジカフェはお世話人が介護関係者であるカフェが多く、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止しているカフェが多い。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
認知症サポーター養成講座の周知を強化することで、講座申込数が増加しており、来年度も講座数増加による委託料の増加が見込まれる予算を拡大する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
年間を通して、認知症サポーター養成講座を実施し、受講者に認知症について正しい理解や対応方法を促すことができた。また、教育機関へ講座実施の周知を強化することで、講座申込数の増加につながった。しかし、新型コロナウイルス拡大状況からか企業や地域の集いの場での講座申込数が減少したため、広く認知症の正しい知識を普及するために、高齢者に関連する企業等への認知症サポーター養成講座の周知を強化していく。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	03214_01	
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費		細事業名			家族介護者慰労金支給事業
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策			高齢者福祉の充実
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり		担当課			介護福祉課
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者		数値	1,857人		
	手段(どうやって)	在宅で中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の解消を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		5,917	6,466	6,466	5,645	扶助費 6,432千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	5,917	6,466	6,466	5,645		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
支給月数			目標値	800	800	800	950
			実績	796	954	446	917
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、継続して事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
要介護者を在宅で介護している家族を慰労するための重要な事業であり、高齢者福祉の向上に役立っていることから、今後も事業を継続する。							

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03524_01			
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	シニアクラブ活動支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	5,159人			
	手段(どうやって)	老人クラブ主催で新居浜市健康都市づくりノルディックウォーキング大会を開催する。また、平成27年10月に結成された「生きいきシニア合唱団」活動の推進を図る。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	超高齢社会において高齢者が健康的な生活を維持するために非常に効果的と思われる新たな大会等への取り組みにより、外出しない傾向が強くなり、運動機能低下も懸念される高齢者の参加を促進し、高齢者からの発信による健康長寿社会への機運を盛り上げる。また、老人クラブ会員の役割と活動の場が確立できることで組織活性化につながり、ひいては将来的には近年減少傾向に加入クラブ数及び会員数の増加を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		387	368	368	368	「健康都市づくりノルディック・ウォーキング大会」開催補助金 268千円 「生きいきシニア合唱団活動事業」補助金 100千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	387	368	368	368			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
ウォーキング大会参加者数及び合唱団参加延人数(人)			目標値	800	800	800	800	800
			実績	660	274	100	209	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>ノルディックウォーキング大会については11月11日の開催に向けての準備を行っている。介護予防の観点からも非常に高齢者に適したスポーツであり、多くの方に参加いただけるように検討していく必要がある。生きいきシニア合唱団活動については、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度はあまり活動ができていない。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>他の地域にはない2つの事業を展開することで、高齢者発信による健康長寿社会実現への意識高揚が図られており、健康長寿の延伸につなげるためにも、次年度についても今年度と同様の予算規模を確保し、健康維持・介護予防に非常に効果的な市政懇談会からの提言事業であるこの2つの事業への支援は継続実施する。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>超高齢社会が加速的に進行している現在、仲間づくりを通じて、生きがいと健康づくりを推進している高齢者の自主的な組織である老人クラブの役割はますます重要なものとなっている。令和3年度については新型コロナウイルス感染症の影響で生きいきシニア合唱団活動が十分にできなかったが、ノルディック・ウォーキング大会への取組みでは多くの参加者を集めることができた。高齢者発信による健康長寿社会実現への意識高揚が図られており、市の課題である健康寿命の延伸につなげるためにも、健康維持・介護予防に非常に効果的な市政懇談会からの提言事業であるこの2つの事業への支援は継続して実施する必要がある。</p>								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03524_02			
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	老人クラブ運営補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	5,159人			
	手段(どうやって)	新居浜市老人クラブ連合会および単位老人クラブへ運営補助金を支給する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ運営を安定させ、活動を活性化させることを目的とする。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	老人クラブ運営補助金 1,948千円		
経費		1,767	1,948	1,948	1,764			
財源	県・国支出金	1,177	1,298	1,298	1,175			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	590	650	650	589			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
職率(老人クラブ会員数/65歳以上の高齢者人)			目標値	16.5	16.5	16.5	16.5	15
			実績	14.3	13.6	13.4	13.5	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
老人クラブ会員数の減少傾向、組織率の低下について大きな課題となっている。新居浜市老人クラブ連合会では会員増強の方策として女性部、若手部が中心となって地域に密着した活動に取り組み、今後はさらに地域支援活動の担い手としての介護予防活動等に積極的に取り組んでいく必要があると考えている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
超高齢社会により、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援という観点から、老人クラブの活動及び役割の重要度は日々増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、次年度についても国・県とともにその取り組みと組織の活性化について継続して支援していく。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年度についても住み慣れた地域で感じられる老人クラブ活動の充実、単位老人クラブ活動の活性化を図ることができ、若手高齢者の活力が発揮できる場への土台作りを進めることができた。超高齢化社会が既に到来している現在、介護予防活動の担い手として、高齢者の生きがいと健康づくりを推進している老人クラブの役割の重要度は増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、国・県とともにその取り組みと組織の活性化について継続して支援していく。								

令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03552_01		
事業名(行目名称)		ねんりんピック開催事業費	細事業名	ねんりんピック開催事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	ねんりんピック愛媛大会での新居浜市開催種目数	数値	3			
	手段(どうやって)	新居浜市においても、交流大会を開催することになり、サッカー、軟式野球及びバウンドテニスの3競技を実施予定である。令和2年度は交流大会実施要綱を策定し、実行委員会の設立準備が必要となり、令和3年度にはリハーサル大会の開催が予定されている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、高齢者を中心に健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与することを目的に毎年度開催されており、令和4年度には愛媛県において第35回大会が行われることとなった。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	150	150	0	ねんりんピック開催事業準備費 150千円	
財源	県・国支出金	0	75	75	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	75	75	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
0			目標値	0	0	0	0
			実績	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和3年度に開催予定であったねんりんピック岐阜大会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、視察が中止となった。令和5年度開催予定のねんりんピック愛媛大会は予定通り開催されることから、開催前年の令和4年度は、神奈川大会視察のほか、実行委員会設立、プレ大会開催等の準備が必要となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
令和5年度のねんりんピック愛媛大会開催に向けて、令和4年度は前年となることから、神奈川大会視察のほか、実行委員会設立、プレ大会開催等を行う必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
令和5年度に開催予定のねんりんピック愛媛大会に向け、令和3年度開催予定のねんりんピック岐阜大会を視察予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため岐阜大会が中止となった。							